

第13回 生殖バイオロジー東京シンポジウム

2014.07.27 東京

人工授精から体外受精へステップアップが必要な精液所見とは？

堀金 聖羅・佐藤 学・橋本 周・岩端秀之・高矢千夏・姫野 隆雄・井上 朋子・伊藤 啓二郎・中岡 義晴・森本 義晴

目的：人工授精(intrauterine insemination :IUI)は精液所見を不良とする不妊に適応され、当院においても初期の不妊治療として施行している。しかし IUI での妊娠率は IVF に比べ低く、また当院で IUI を施行する患者年齢は上昇している。そのため時間的な制約が増しており、早めのステップアップを考える必要がある。そこで IUI を行うか、IVF へステップアップするかの基準を設定することを目的とし IUI 妊娠者の精液所見を後方視的に調べた。

方法：2003年10月から2013年3月までに当院で IUI を施行し陽性反応を示した 696 症例を対象とした。平均年齢は 33.7 ± 0.14 歳であった。原精液をマクラーチャンバーで、総精子濃度、運動率を測定した。総精子濃度は低値群: $20 \times 10^6/\text{ml}$ 未満、中値群: $20 - 75 \times 10^6/\text{ml}$ 未満、高値群: $75 \times 10^6/\text{ml}$ 以上に分類し各群での割合を比較した。運動率は低率群:40%未満、高率群:40%以上の 2 群に分けて同様に検討した。

結果：総精子濃度が低値群、中値群、高値群に分類された割合はそれぞれ 7.3%、47.8%、44.8%であり中値群、高値群間で差はなかったが、低値群では有意に低かった($P < 0.01$)。運動率は低率群 11.1%、が高値群 88.9%に比べ有意に低かった($P < 0.01$)。

結論：今回の検討から原精液のデータに伴って IUI を実施する一定の基準を見出すことが出来た。特に総精子濃度が $20 \times 10^6/\text{ml}$ 以下の症例において IUI 妊娠反応陽性を示す数は少なく、早めのステップアップが必要であると考えられる。